

2013年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度は、大西洋からユーラシア大陸にかけて寒帯前線ジェット気流に沿って正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが卓越した。これに対応して、偏西風が南に蛇行したヨーロッパ西部では低温偏差、北に蛇行したロシア西部では高温偏差となった。また、東アジアでリッジ、日本の東海上はトラフとなった。カムチャツカ半島付近ではブロッキング高気圧が形成された。

熱帯の対流活動は、北インド洋、インドネシアの南で平年より活発、太平洋赤道域の日付変更線付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋から太平洋西部を東進した。対流圏下層の赤道域では、インド洋からインドネシア付近で西風偏差、太平洋では東風偏差だった。対流圏上層ではユーラシア大陸南部で亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンとなり、インド北西部で高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+1.0だった。

世界の天候

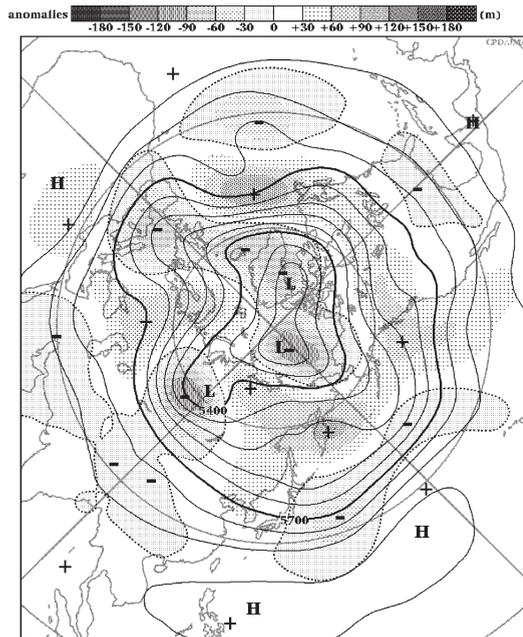
2013年5月の世界の月平均気温偏差は+0.20°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- ヨーロッパ北部～アフリカ北部の広い範囲で異常高温となった。
- ヨーロッパ西部で異常低温、ヨーロッパ東部～西部では異常多雨となった。
- 米国中部では異常多雨となった。

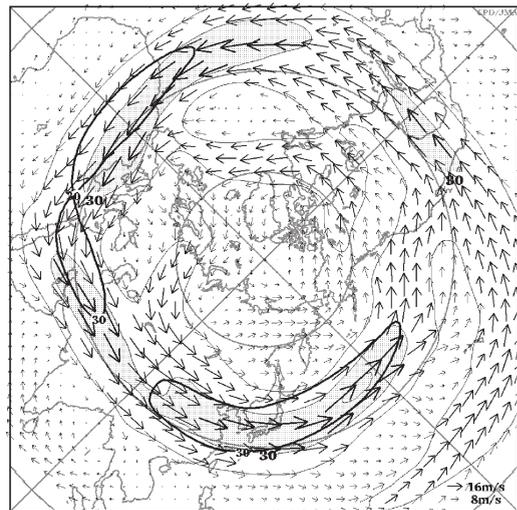
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

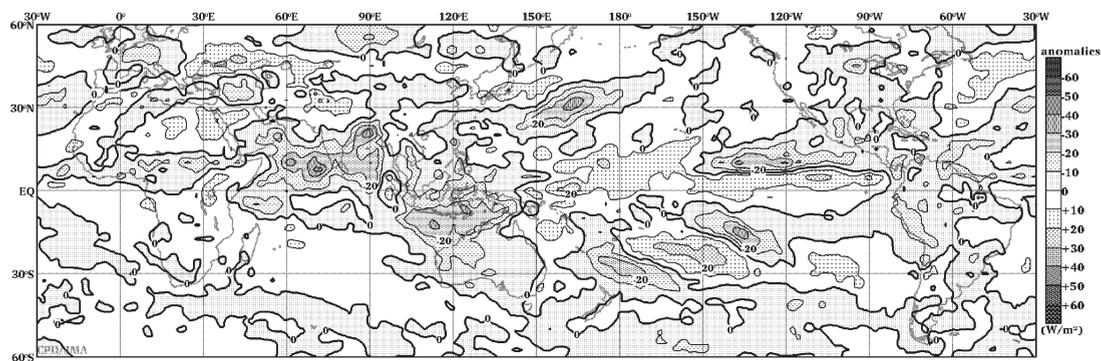
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



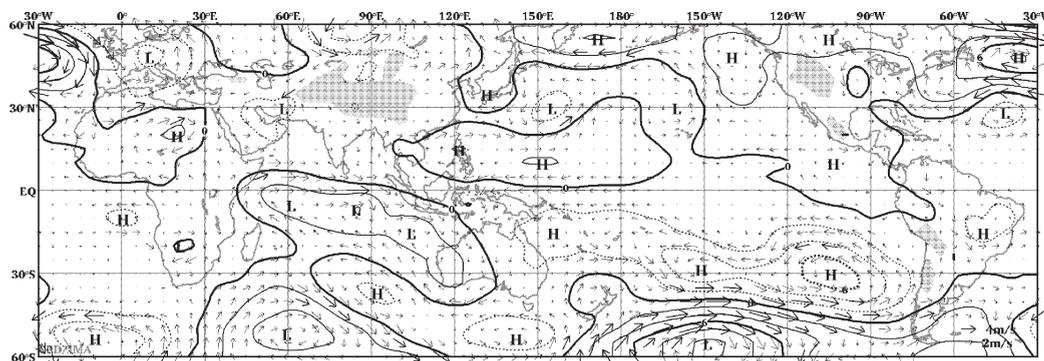
2013年5月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



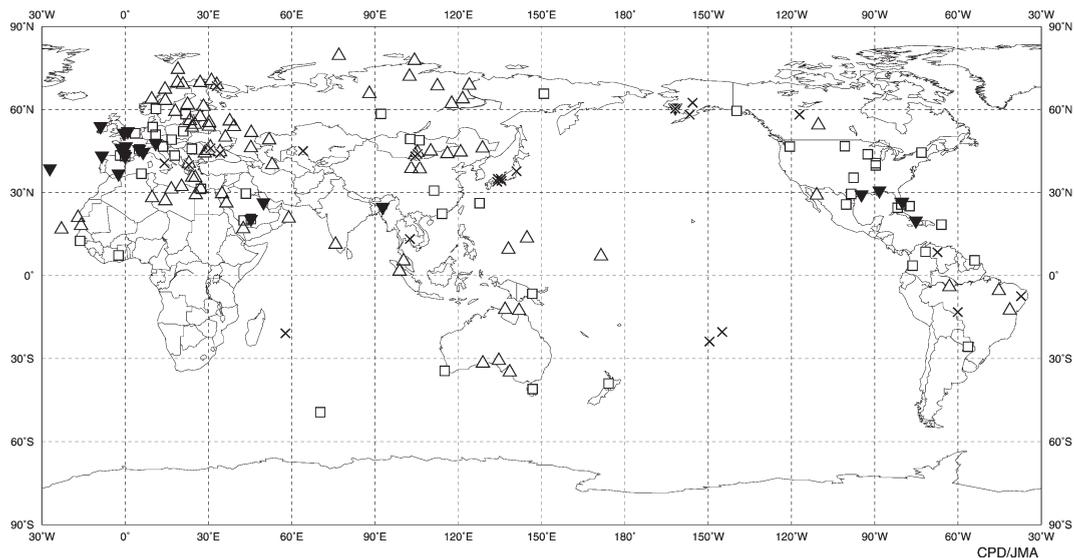
2013年5月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。陰影部は30 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年5月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。